

第9分科会「健全育成」の運営概要

【研究課題】「児童の健全育成と危機管理の推進における校長の在り方」

【研究の視点】(1) いじめや不登校等を生まない学校づくりの推進

(2) 危機管理に強い組織育成のための意図的・計画的な取組の推進

I 分科会研究協議の運営計画

校長は、教育目標を達成するために欠くことのできない重要な機能の一つとして健全育成をとらえ、教育課程における特定の領域や内容に偏ることなく、学校の教育活動全てにわたって十分に作用させるようにすることが必要である。また、日常的に起こりうる危機を想定した家庭・地域・各関係機関との連携・協働体制を確立しておくとともに、あらゆる教育活動の場面で、全教職員の協働的な取組を展開するようにリーダーシップを発揮することが求められている。

そこで、第9分科会では以下の2つを視点として研究課題を追求していく。

いじめや不登校を生まない社会を実現していくためには、全ての子どもの人権が尊重され、自己実現の喜びを味わえ、安全で安心できる居場所となる学校を目指した教育活動を展開していく必要がある。

また、危機管理に強い学校組織を構築するためには、学校は、未然防止と再発防止の二つの視点から、日常的に起こりうる危機を想定した家庭・地域・各関係機関との連携・協働体制を確立しておく必要がある。

したがって、この二つの視点から、討議の柱を次のようにし最終的な話し合いの目的とした。

討議の柱を「いじめや不登校等を生まない意図的・計画的な学校づくり・組織づくり推進における校長のリーダーシップ」とした。

〈研究の視点1にかかわって〉

- ・児童の悩みや相談を学校全体で取り上げる組織的な取組
- ・児童にかかわる幅広い情報収集と多面的な理解を図る取組
- ・生徒指導の機能を生かし、かかわり合う力を育む教育活動の推進

〈研究の視点2にかかわって〉

- ・関係諸機関との情報共有や連携を重視した組織的な指導の推進
- ・地域・家庭・関係諸機関との連携を図り、児童の自主性と連帯性を育む取組

II 昨年度の課題(渡島・北斗大会第9分科会より)

○教職員が課題意識を共有し、組織一体で健全育成に取り組むことができた。

○生徒指導の機能を生かした共感的な姿勢・態度で子どもたちを育てる学校づくりができた。

○地域一体となった「共育・協育」を推進することができた。

●マネジメントサイクルを機能させて健全育成の質を高める必要がある。

●ミドルリーダーの育成や、組織力向上を図る研修の実施において、積極的に指導性を発揮する必要がある。

●教職員全員によるチームで「教員文化」を創造するためのリーダーシップを発揮する必要がある。

Ⅲ 研究発表の概要

- 研究発表者 留萌地区 留萌市立阿分小学校長 石 田 正 樹
- 発 表 題 「いじめや不登校等を生まない意図的・計画的な学校づくり・組織づくり」
- 【発表の要旨】 健全育成に関わる取組の具体として6事例を発表する。
- 視点1 いじめ不登校等を生まない学校づくりの推進
- 事例1…道徳教育の充実で進める健全育成
 - 事例2…全教職員の共通理解で進める健全育成
 - 事例3…いじめ防止基本方針に基づく健全育成の取組
 - 事例4…いじめ防止基本方針と指定事業を連動させた取組
 - 事例5…「不登校」を生まない学校づくり
- 視点2 健全育成に関わる危機管理に強い組織づくり
- 事例6…校種間連携で進める健全育成

Ⅳ 協議の流れ

1	開会のことば	… 3分	(13:00～13:03)
2	担当者の紹介	… 3分	(13:03～13:06)
3	司会者挨拶	… 6分	(13:06～13:12)
	● 日程確認・グループ編成等について		
4	グループ内で名刺交換	… 5分	(13:12～13:17)
5	趣旨説明	… 10分	(13:17～13:27)
6	研究発表	… 20分	(13:27～13:47)
7	情報交流・質疑応答	… 20分	(13:47～14:07)
8	休憩	… 15分	(14:07～14:22)
9	研究協議		
	● グループ討議	… 40分	(14:22～15:02)
	● 休憩	… 15分	(15:02～15:17)
	● 全体討議	… 50分	(15:17～16:07)
10	研究協議のまとめと今後の課題	… 20分	(16:07～16:27)
11	閉会のことば	… 3分	(16:27～16:30)

《9分科会に参加される皆様へ》

参画型分科会を目指すために、研究発表内容で表出した課題と参加される皆さんの地区または学校で抱える課題を比較検証し、互いに今まで悩んでいた課題が解決することが大事と考えた。

そこで研究発表の中にある「課題～更なる充実へ向けて」から

- いじめ防止対策のための組織づくりに向けて、町村部における学校においても教育委員会と連携を図りながら、外部専門家に相応しい人材を確保し、実効性のある構成員としていく必要がある。
- 健全育成の視点から義務教育9年間で、子どもたちをどのように育てていくかという視野に立ち、小中の校長同士が連携を密にし、校長・教頭だけでなく一般教員も巻き込んだ実効性のある小中連携教育の推進を校長会としてリーダーシップを発揮していく必要がある。
- 社会状況の急激な変化によって、子どもたちを取り巻く生活環境や身の回りの通信手段への対応が今までの考え方や指導では通用しなくなっている。学校内の組織対応だけでは困難になってきていることから、外部の専門的な機関や団体等との連携を具体化して実行する働きかけをできるだけ早く進める必要がある。

「いじめ防止対策のための組織づくり」「小中連携教育の推進」「外部機関との連携」を9分科会の討議の柱としていきたい。

皆様の地区や学校での上記3点にかかわる資料を持ち寄り、グループ討議・全体討議をし、いじめや不登校等を生まないための組織作りや活動における校長としてのリーダーシップについて話し合いましょう。

※資料はグループ内人数として10部程度持参してください。